

2015年7月4日

国立大学法人北海道大学

総長 山口 佳三様

北大生・宮澤弘幸「スパイ冤罪事件」の真相を広める会

代表 山野井孝有

同 山本 玉樹



## 「北海道大学宮澤記念賞」について意見

貴大学は、去る6月26日、学生10人に「北海道大学宮澤記念賞」を授与したと聞きました。意義深く執り行われたものと拝察致します。受賞された学生のみさんが、戦時下であっても不当な弾圧に対して不屈に闘い抜いた宮澤弘幸の精神を受け継ぎ、北大生として誇りを抱いて勉学に励むことを期待するものです。

しかし、これまでのところ、新聞発表もなく、貴大学ホームページへの記載もなく、「宮澤記念賞」の創設に同意した宮澤弘幸の遺族・秋間美江子さんへの連絡等もなかつたように思います。

本賞は、本会に説明頂きましたように、単なる学内賞に止まらない社会的に意義ある賞だと承知致しております。であるなら、当然、社会的に意義あるものとして正門から発信すべきだったと思いますが、いかがでしょうか。創設に快く同意した秋間美江子さんはコロラド・ボルダーにて、「きっと授与式の知らせがくると思います。その時は何としても参加したい」と心待ちにされておりました。秋間さんに対しても大変失礼であり、社会一般の常識にも悖ると思わざるを得ません。

貴大学は、本会との交渉の席上、「二度と戦争を起こさせない」ことで一致し、「宮澤事件は冤罪であることを重視し、これを直接伝えていくことは、事件を風化させることなく、宮澤君の名誉を守ることになると考えている」と明言されました。そうであるならば、軍機保護法の流れを引く特定秘密保護法が強行成立され、「戦争法案」が大きなテーマになっている現在、第二、第三の宮澤弘幸をつくりださせないために、貴大学が先頭にたって、宮澤弘幸の不屈の精神を顕彰・発信すべきではないでしょうか。「宮澤記念賞」の授与は、そのまたとない機会だったと思いますが、いかがでしょうか。

貴大学の教育理念は「真理に倚って立つ自主独立の自修心」にあると承知しています。真に、学問の府・教育の府に相応しい「宮澤記念賞」として発展させていくことを期待し、今回の次第に対する意見とさせて頂きます。